特集
移動図書館、今日も行く！… 2
移動図書館って何？
ごぞんじですか？ 島根県内の移動図書館

あなたのまちの図書館めぐり
かわもと図書館
竹島資料室
米子市立図書館 …… 4

図書館の上手な使い方。
調べ物のお手伝いいたします！…… 6

バリアフリー図書を整備しました。…… 8

人と人との縁結び
島根県立図書館報
http: //www. lib-shimane. jp/

図書館だより

2014
秋冬号
2014年12月10日発行
第202号

特集

移動図書館、今日も行く！

公共図書館は、地域のすべての人が利用できるものです。しかし、交通の便が悪いなどの理由で、公共図書館を利用しにくい地域もあります。そんな地域に本を届けるのが移動図書館です。
すべての人に図書館サービスを提供するため、移動図書館は今日も走ります。

移動図書館って何？

移動図書館とは

図書館を利用しにくい地域の住民に対し、図書館員が図書館資料を運び、貸出・予約などのサービスを提供する方法です。最近では BM（book mobile の略）が通称となっています。

移動図書館の目的

すべての地域住民が公平に図書館サービスを受けられるようにすることが主目的ですが、地域住民に図書館への理解を深めてもらい、図書館や分館をつくろう！という雰囲気をつくり出すことも重要です。

移動の手段

歴史的には馬車、自転車、リヤカーなどが使われてきましたが、現在では特別に改造された自動車の利用が主流となっています。離島向けに図書館船が使われた例があるほか、外国では鉄道やヘリコプターも使用されています。

日本の移動図書館

1949（昭和24）年、千葉県立図書館の〈訪問図書館ひかり号〉によって開始されたという説が有力です。その後、1965（昭和40）年からの日野市立図書館の活動により、全国的に普及しました。大手出版社による移動図書館が全国巡回を行っている例もあります。

「楽天いどうとしょかん」島根県で運行開始!

7月26日のオープニングセレモニーの様子

「楽天いどうとしょかん」は、教育振興および東日本大震災の被災地復興のために 2012 年 2 月から福島県内において運行してきました。その後、新たに地域活性化も目的に加え、岐阜県と島根県でも運行を開始しました。
島根県では 2014 年 7 月から運行しており、図書館車には島根県立図書館の絵本、児童書、学習本、島根県に関する本など約 1,200 冊を搭載しているほか、楽天が提供する電子ブックリーダー「kobo Touch」20 台も搭載しています。県内の幼稚園、保育所、小中学校、特別支援学校、公民館、放課後児童クラブなど、希望のあった施設を巡回し、本の貸出や kobo の利用体験を行っています。

ごぞんじですか？

島根県内の移動図書館

県内の市町立図書館が運行している移動図書館を紹介します。

松江市立図書館
「本のかけはし だんだん号」

平成20年11月に運行を開始しました。約2,000冊の本をのせて、図書館から遠い地域へ本を届けています。「だんだん号が来た!」と喜んで飛び乗ってくる子どもたちや、「待ってたよ」と毎回来てくださる利用者さんたちと、静かな図書館ではできない会話も楽しみながら巡回しています。

浜田市立図書館
「L♥VE BOOK（ラブック）号」

平成 19 年 12 月から山間部の小・中学校、公民館を中心に運行しています。愛称は、英語のラブ（愛）とブック（本）をかけたもので、市内小中学生への公募によって決まりました。平成 26 年度は、6 コース 32 か所のサービスポイントを月 1 回巡回しています。

吉賀町立図書館 「みたい号」

巡回は今年で 23 年目になります。現在の「みたい号」は 2 台目で、名前を公募し「みんなが　たのしみ　移動図書車」の頭文字から「みたい号」と名付けられました。町内の保育所に月 1 回、小学校は月 2 回巡回します。利用者も今では親から子に引き継がれ喜ばれています。

かわもと図書館

因原保育所・川本中学校・未就学在宅児を対象としたミニ読書会の中で移動図書館を行っています。乳幼児期から本と触れあう機会を作ることで、本と親しむ習慣が身に付きだし、回を重ねるごとに楽しみにしている子ども達が増えてきています。今後は、関連機関と連携を持ち、個別に呼びかけを行っていきます。

江津市図書館

昭和 49 年の図書館開館と同時に移動図書館を開始し、現在は跡市小学校にのみ訪問しています。月一度の実施日には、児童は時間いっぱい使って楽しそうに利用しています。かつての利用者からも「移動図書の日がとても楽しみだった」との思い出をお聞きします。

海士町中央図書館

海士で図書館事業が始まったのが平成19年ですが、その20年以上前から移動図書館サービスが行われてきました。役場の健康相談に併せて、2 か月に 1 回、全 14 地区の公民館を巡回しています。中央館に足を運べない高齢者の方を対象に地区の特色に合わせた選書を行い、喜んでご利用頂いています。

こんな移動図書館も…

「出張 MINI 図書館」

（島根県立松江工業高等学校）

本校の広い敷地の中、教室棟から工業機器が並ぶ実習棟を過ぎたその先に図書館棟があります。生徒から「遠い……。」と言われることもしばしばです。そこで行っているのが、図書委員会による「出張 MINI 図書館」です。当番委員が選んだ本を昇降口手前に運び出し、下校時に貸出、返却、リクエストを受け付けています。全生徒の日常に本を！文工両道！を目指しています。

あなたのまちの図書館めぐり

県内には公共図書館や学校図書館など様々な図書館があります。皆さんの身近にある図書館は、県内外の図書館や関連する専門機関と連携し、より多様な資料やサービスの提供に努めています。あなたのまちの図書館と、そこからつながっている図書館をご紹介します。

かわもと図書館　「図書館を知る、仕事を知る」

川本町、悠邑ふるさと会館の中にあるかわもと図書館。日中は静かな図書館ですが、夕方になると、隣にある川本小学校の児童達でにぎわいます。通学バスの待ち時間に、本を読んだり勉強をしたり。図書館から離れている中学校や保育所には、移動図書館で本を提供しています。保育所の子ども達は、お楽しみ図書館dayで図書館のルールを学び、幼い頃から本と図書館に親しめるようにしています。また、老人福祉施設にも、配本や紙芝居の読み聞かせを行っています。普段、図書館に来ない人達には、移動図書館や、川本町産業祭に合わせて行ったあおぞら図書館まつりなどで、図書に触れる機会を作っています。子どもからお年寄りまで、川本町の人々に本を提供する大切な拠点です。

かわもと図書館は、「まちごとキャンパス」という取り組みに参加しています。川本町の各施設に、島根中央高校の生徒が、約１年間、毎週金曜日にインターンシップに来るというものです。図書館にも、生徒がインターンシップに来ています。普段は本の配架などの日常の業務を行っていますが、それと並行して別の業務も務めています。去年は、インターンシップに来た2名の生徒が、今までに出会った心に残っている本を紹介するために、一冊の本にまとめました。紹介した本の中の一冊からアイデアをもらい、『まちキャンブックレストラン』というタイトルになったこの本は、装丁・文字・コメントの内容など、生徒自ら考えて作りました。こうして、様々な普段の業務に加えて長期的な業務を行っていくことで、仕事に対する目的意識を育むのが、インターンシップ先としてのかわもと図書館の狙いなのです。

『まちキャンブックレストラン』。
表紙の絵も、本を作った高校生の力作です。

今年「まちごとキャンパス」で図書館に来た高校生にもお話を聞きました。普段から図書館に馴染みが深いと語る彼女は、分類など、本の並び方に興味を持って図書館をインターン先として希望したそうです。図書館での仕事について、「本の配架などの普段の作業以外にも、たくさんの作業があることを知りました」と語ってくれました。今まで経験した作業の中では、書架の見出し作りが一番楽しかったそうです。「あのへんにありますよ」と嬉しそうに教えてくれました。自分の仕事の成果が後々まで残るのも、仕事の楽しみの一つです。図書館のインターンシップで、多くのことを学んで、未来へと役立ててほしいです。

施設への配本作業を行う高校生。本の大きさを考えながら、
一冊一冊並べていきます。

【かわもと図書館】
開館時間：10時～18時
休 館 日：火曜日、祝日、月末、年末年始、図書館整理日
貸　　出：10冊まで、２週間

竹島資料室　「誰でも使える、わたしたちの資料室です」

島根県が2月22日を竹島の日と定めたのが2005年。竹島に関する文献や竹島問題研究会の研究成果の公開など、竹島問題の広報啓発に取り組むために2007年に開設した竹島資料室は、島根県庁第３分庁舎にあります。

竹島に関する資料として、行政文書、出版物、写真、地図、ビデオテープなどを揃えています。図書等閲覧コーナーで書籍等をゆっくり閲覧できるほか、展示コーナーでは地図・絵図、パネルなどをとおして、竹島をビジュアルで知ることができます。ＤＶＤ視聴コーナーでは、竹島で昭和初期まで島根県民がアシカ漁など生業を営んでいたこと、竹島付近が豊かな漁場であること、日韓の竹島をめぐる経緯や現状などを、映像を通じて知ることができます。

竹島という特定のテーマを専門的に扱う資料室。一見難しそうですが、皆に知っていただきたいという思いが伝わってくる、わたしたちの資料室です。島根県内では、現在すべての小・中・高等学校・特別支援学校で竹島に関する学習が行われています。子どもも大人も私たちの竹島について知ってみませんか。

【竹島資料室】
開館時間：9時～17時
定 休 日：火曜日、年末年始
入室無料

米子市立図書館　「新しい図書館は工夫がいっぱい」

リニューアルから１周年を迎えた米子市立図書館は、明るく広くなり、たくさんの方が訪れるようになりました（来館者数・貸出冊数は約１・５倍に増加!）。バリアフリーと子どもの読書にとても力が入っていることがよく分かる館内です。玄関を入って右手の新しく増設された部分は、児童図書室になりました。子ども向けの読み物や、調べ学習に役立つ本、紙芝居、絵本の横の「子育て支援コーナー」には育児書などが充実しています。「おはなしのへや」では、週に一回ボランティアさんなどによるおはなし会も開かれるそうです。授乳室や子ども用のトイレも整備され、ベビーカーを押す保護者の方の姿もたくさん見られました。

ブラウジングコーナーを挟んで左側が一般資料室。鳥取県立図書館からの支援で充実した「ビジネス支援コーナー」の他、「法律情報コーナー」、「健康情報コーナー」など、生活に密着した情報がすぐに手に入るような工夫がされています。

２階に上がると、ギャラリースペースなどもあり、サロンのような雰囲気です。参考・郷土資料室と情報検索ブースの他、廊下の両脇には開館当時からの貴重な文庫が展示されています。たたらに関するものや、山陰両県にまたがる郷土資料なども多く、「中海圏域」を感じる図書館でした。島根から少し足を伸ばして、ぜひおでかけください。

【米子市立図書館】
開館時間：火～金曜日　9時～17時
　　土日祝　10時～18時
休 館 日：月曜日、月末、年末年始
　　特別資料整理期間
貸　　出：10冊まで、2週間

調べ物のお手伝いいたします!

ダンゴムシの謎を追い求めて…

参考カウンターで「ダンゴムシが進む向きを変える反応、『交替性傾向反応』について書いてある資料はありませんか？」という質問を受けました。

①キーワードは正確？　～インターネットで調べる～

「交替性傾向反応」…耳慣れない言葉です。まずはダンゴムシに関する本や昆虫事典を調べましたが、「交替性傾向反応」という言葉は見当たりません。

インターネットの検索エンジンで「交替性傾向反応」を調べたところ、「交替性転向反応」という言葉を含むページがいくつか見つかりました。どうやら、正しくは「交替性転向反応」だったようです。

②キーワードで調べる！　～論文記事や本を探す～

正確なキーワードが分かったので、Webサイト「CiNii Articles」※1、「国立国会図書館サーチ」※2、「J-STAGE」※3を使用し、交替性転向反応について書かれた資料を探します。

いくつか論文記事が見つかりましたが、いずれも県立図書館では所蔵していないものでした。しかし、見つかった論文の中には、インターネット上で無料で閲覧できるものもありました。

③さらに範囲を広げて調べる！　～論文の著者によるその他の本を探す～

ダンゴムシに関する論文を書いた人が他にも本を書いていたら、その本にも交替性転向反応に関する記述があるかも知れません。

そこで、②の検索で見つかった論文の著者について、Webサイト「TOOLi」※4で調べます。残念ながら、その他の本を見つけることはできませんでした。

この時点では県立図書館には、交替性転向反応について書かれた資料がありませんでした。質問をされた方にはこのことをお伝えし、②で見つけたインターネット上で閲覧できる論文を紹介しました。

市町村図書館を通して貸出します

すべての県民の皆さんに県立図書館の資料を利用してもらうため、市町村の図書館などを通して資料の貸出を行っています。

①県立図書館に求める資料があるかどうかは、インターネットの蔵書検索（県立図書館HP）や、電話での問い合わせ（0852−22−5748）またはお近くの市町村図書館までおたずねください。

②借りたい資料が決まりましたら、お近くの市町村図書館（図書館未設置の4町村は中央公民館等）へお申し込みください。週3回、市町村図書館等へ発送します。

図書館の上手な使い方。
～司書にきいてみよう!編～

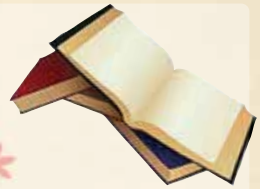
それから数年後

④とことん情報を追い求める！　～その後出版された本を調べる～

質問を受けてから数年後に出版された『ダンゴムシに心はあるのか』[※5]という本に、交替性転向反応に関する記述がないか調べました。すると、第二章「ダンゴムシの実験」で、「交替性転向」の意味や仕組み、その実験内容が解説してありました。

質問された当時は十分な資料提供ができませんでしたが、もしかしたら同じ質問をまた受けるかも知れません。レファレンスの回答プロセスは、きちんと記録しておきました。

今回の調べ物に使った資料はこちら



使用したサイト

※1　CiNii（サイニィ） Articles <http://ci.nii.ac.jp/>

国立情報学研究所が運営する学術論文や図書・雑誌などの学術情報データベースです。論文の一部は無料で公開されています。

※2　国立国会図書館サーチ <http://iss.ndl.go.jp/>

全国の公共図書館、公文書館、美術館や学術研究機関等が提供する資料、デジタルコンテンツを統合的に検索できるサービスです。

※3　J-STAGE <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>

科学技術振興機構が運営する、国内で発行された学術論文全文を読むことができる総合学術電子ジャーナルサイトです。

※4　TOOLi（ツールアイ） <https://tooli.trc.co.jp/>

図書館流通センターが提供する図書館専用ポータルサイトです（使用するには契約が必要です）。今回は図書の検索に使用しました。

回答に役立った本

※5『ダンゴムシに心はあるのか：新しい心の科学』（森山 徹／著　PHP研究所 2011）

心と脳は切っても切り離せないもの。ならば、大脳を持たないダンゴムシには心がないのでしょうか？「心とは何か」を考える一環として、長年ダンゴムシを観察してきた著者がその疑問にせまります。

図書館はあなたの「知りたい」に応えます。

読 書普及指導員・親子読書アドバイザーを派遣します

保護者参観や職員・ボランティアの方の研修会等で、親子読書や読み聞かせの基本的な考え方やポイントなどお話しします。

〈お問い合わせ〉

子ども読書支援係（0852−22−6077）
または、西部読書普及センター（0855−23−6785）

郷 土資料収集のお願い

島根に関する資料（新旧にかかわらず）を収集・保存しています。ご寄贈、情報の提供をお願いします。

〈お問い合わせ〉

郷土資料・調査係（0852−22−5732）

…すべての子どもに読書の楽しみを…

バリアフリー図書を整備しました。

県立図書館では、目が不自由な方や文字を読むことに障がいのある方にも利用しやすい資料を所蔵し、提供しています。学校や市町村図書館等を通じてその活用を広げるため、子ども用バリアフリー図書を新たに整備しました。

今回整備したバリアフリー図書

- **目で楽しむ**　大活字本、LLブック、絵事典
- **さわって楽しむ**　点字絵本、布絵本、しかけ絵本
- **耳で楽しむ**　朗読CD、落語CD、DAISY図書

■その他、大勢で楽しむパネルシアター、エプロンシアター、大型絵本があります。

上記の利用対象

- **障がいのある子どもおよび家族**　在籍している学校を通じて借りるか、最寄りの市町村図書館等にお申込みください。
- **特別支援学級／障がい児入所・通所支援施設／ボランティア団体**　最寄りの市町村図書館等にお申し込みください。（図書館によって貸出方式が異なりますので、最寄りの市町村図書館等でご確認ください。）
- **特別支援学校／市町村図書館等**　所定の申込書にて島根県立図書館にＦＡＸにてお申込みください。（直接来館による貸出もできます。）

■大活字本、CD、DAISY図書等は、どなたでも利用いただける資料も所蔵しています。

バリアフリー図書の一覧、詳しい利用方法等は、県立図書館ホームページ（http://www.lib-shimane.jp/shiryou/barrierfree.html）に掲載しています。

11月には県立図書館で「バリアフリー図書で拡がる！子どもの読書」と題し、展示を行い、バリアフリー図書活用講座を開催しました。展示を希望する図書館・学校はお問い合わせください。

お問い合わせ先　地域支援係(0852-22-5729)

INFORMATION

島根県立図書館　利用案内

●開館時間／火 ～ 金　9時～19時（3月～10月）
9時～18時（11月～2月）
土日･祝日　9時～17時（通年）
●休 館 日／毎週月曜日（祝日の時は開館）
第1木曜、年末年始、特別整理休館
※詳しくは開館カレンダーをご覧ください。

〒690－0873　島根県松江市内中原町52
TEL. 0852－22－5725　FAX. 0852－22－5728
ホームページ　http://www.lib-shimane.jp/

人と人との縁結び　図書館だより は、本を読む愉しみを味わえるビジュアル情報誌です。
島根県の、本・人・図書館にまつわる話題をお届けします。
皆さんの「本のある暮らし」を応援します。

島根県立図書館報
図書館だより　第202号
平成26年12月10日発行
編集・発行／島根県立図書館

島根県立図書館イメージキャラクター
ぶっくまくんとしおりちゃん